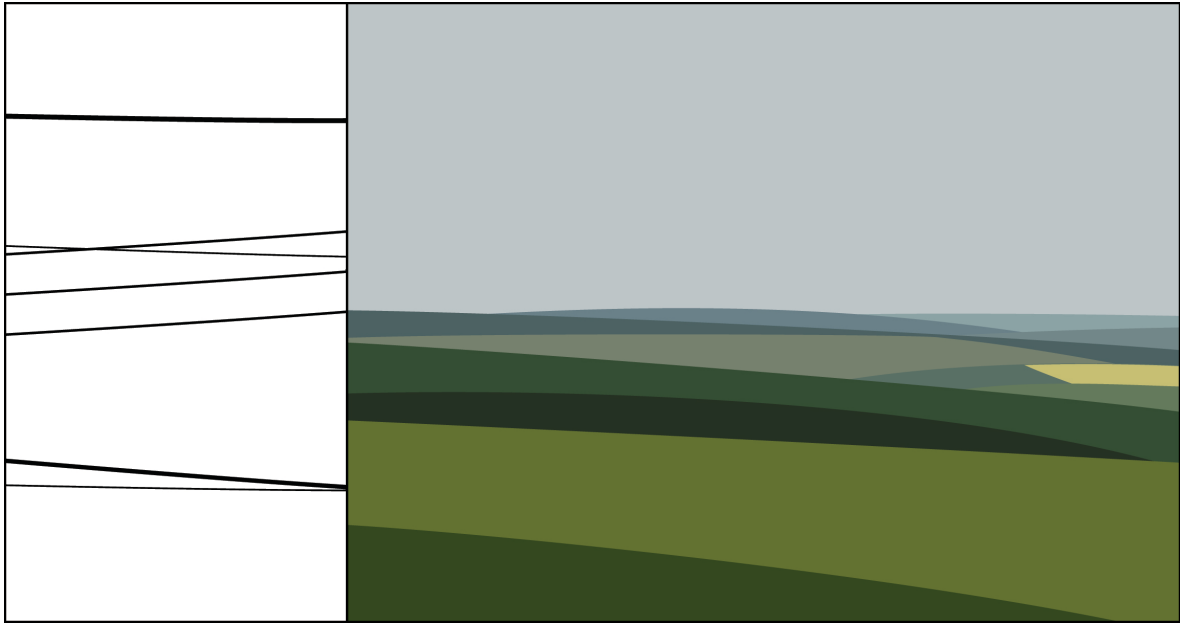


MAHO KUBOTA GALLERY  
ジュリアン・オピー展のご案内

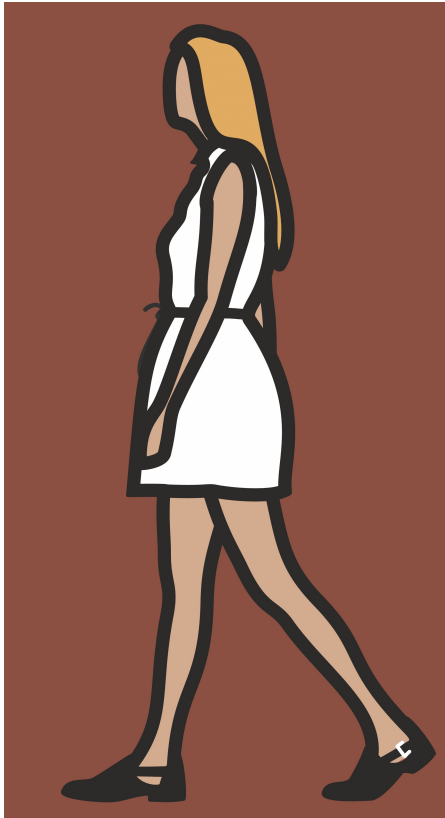


<Train.> 2016年 映像アニメーションとインクジェットプリント

©Julian Opie / MAHO KUBOTA GALLERY

MAHO KUBOTA GALLERYでは10月19日（水）よりジュリアン・オピーの個展を開催いたします。本展では新作のペインティングと映像作品14点を展示の予定です。

イギリスを代表するアーティストの一人であるジュリアン・オピーの作品は今や世界のあらゆる場所で目にすることができます。ロンドンの中心部に恒久設置された彫刻作品やニューヨークのホテルのロビーの壁画、チューリヒや香港の街角の巨大な映像作品、そして日本では東京汐留の電通本社ロビーの「歩く人」の映像作品、高松市玉藻公園の石の彫刻など、オピーの作品は都市の風景の中にごく自然に設置され、様々な国籍や年齢の通行人の目を楽しませております。ピクトグラムやデジタルサイネージを連想させるシンプルな黒い描線と鮮やかな色彩が特徴的な作品は、知らぬうちに私たちの日常の生活の中に紛れこみ、次の瞬間には「これは何、なぜここにあるの?」という驚きをともなって我々の注意を引きます。それは美術館やギャラリーの中で来館者を待っている静的なアート作品ではなく、自ら街に出て行き生活者や都市との関係性の中で成立する、現代の社会を体現する生き生きとしたアートといえます。



< Tina. 2.> 2016  
©Julian Opie / MAHO KUBOTA GALLERY



< Faime. 1.> 2016  
©Julian Opie / MAHO KUBOTA GALLERY

オピーの作品の魅力を一言で語るとすると、限りなく簡潔化されたビジュアルイメージに対しごく小さなディテールを加えることで生まれる、時に現実世界よりさらに現実に近い視覚体験の再現にあると言えるかもしれません。一見ランダムに、あるいは機械的に決められたアルゴリズムによって取捨選択されたようにみえるモチーフを組み上げていく表現様式は、実際にはアーティストの何十年にも及ぶ表現への実験的アプローチの数々から獲得された絶対無二のものと言えます。その過程は「複雑なものをシンプルにするという感じではなく、何もないところから表現に必要な最低限のものを少しずつ足していく」過程だとアーティストは言います。その固有のスタイルにより人々はオピーの作品を一目で見分けることができますし、オピーの手法を自分の心象風景の中で簡単に再現することすらできます。

本展に向けてオピーはギャラリースペースを壁面でしきり、迷路のような空間を創り出す予定です。迷路に迷い込む鑑賞者は、狭い空間を行き来するうちに壁のペインティングの姿を自分の動きにエコーさせ、次のコーナーにある映像作品を通して外の世界を疑似体験するような複合的な知覚のプロセスを体験することでしょう。止まっているものがあり、その傍らに動いているものがある。それは私たちの世界の当然ともいえるリアリティです。見る行為によって私たちは世界に命を与えています。アートとは視覚体験でありながら実は目の単体による体験ではなく、私たちの五感、あるいはそれを超える知覚がすべて総動員されることで初めて認識できる実に複雑で総合的な知覚の体験であることを、もっともシンプルな表現で伝えようとするジュリアン・オピーの新作展。そこには時代を超えて人々が表現し続けてきた古代エジプトの、江戸時代の浮世絵師の、それぞれの時代の表現者たちの瞬間瞬間の息遣いさえ感じられることでしょう。時代や場所が変わってもアートとは個人と世界の関係性そのものであり、私たちをとりまくすべての環境とその断片的な体験の複合がアートを形作っていることを本展を通して感じていただければと願います。

<展覧会概要>

展覧会名 「JULIAN OPIE」  
展覧会会期 2016年10月19日(木) -12月3日(土)  
12:00-7:00pm  
会期中 日・月および祝日は休廊  
会場 MAHO KUBOTA GALLERY  
東京都渋谷区神宮前 2-4-7 1F tel 03-6434-7716  
<http://www.mahokubota.com>

入場無料

広報お問合せ: [info@mahokubota.com](mailto:info@mahokubota.com)  
03-6434-7716



<Tunnel. 1.>2016年 映像アニメーションとインクジェットプリント

©Julian Opie / MAHO KUBOTA GALLERY

ジュリアン・オピー

1958年ロンドン生まれ。イギリスの現代美術を代表するアーティスト。

風景や人物など、アートにおける古来からの主要なモチーフをピクトグラムやアニメの表現を連想させるシンプルな描画と色彩表現により簡略化し、最低限の要素で表現する表現様式がアート界のみならず広義のカルチャーシーンで大きな支持を集め続けている。日本美術にも造詣が深く、広重や歌麿などの浮世絵の収集家でもあり、作風への影響もよく知られている。ニューヨーク近代美術館、大英博物館、テートギャラリー、ステデリック美術館など世界の主要な美術館に作品が収蔵されており、日本では東京国立近代美術館、国立国際美術館等にコレクションされている。

近年の展覧会としては大英博物館(2011年)、英国ナショナルポートレート・ギャラリー(2011年)、テートギャラリー・リバプール(2013年)、ポーランド現代美術館(2014年)、ドイツ新美術館(2015年)などがある。Blurのアルバムジャケット、英国ロイヤルバレエ団やU2のステージデザインなど、アートの枠を越えたプロジェクトも多数手がけている。